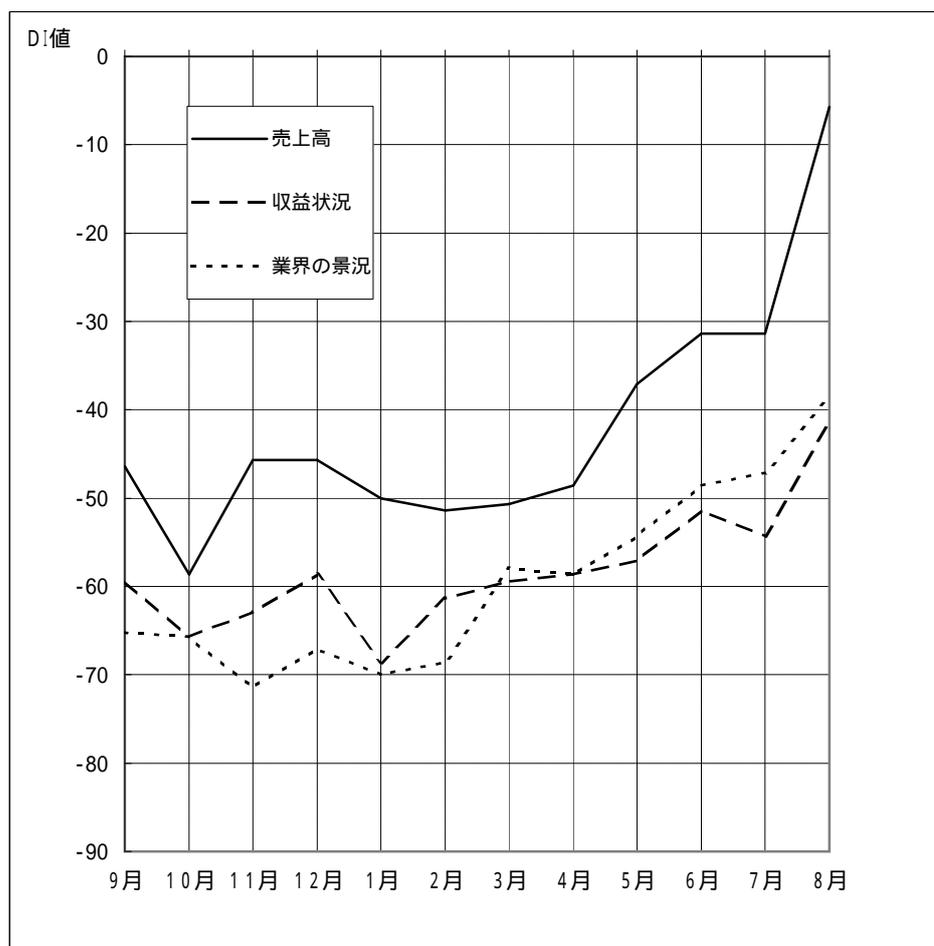


業界の景気動向(前年同月比)全業種DI値

平成14年9月～平成15年8月

単位:ポイント



	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
売上高	-46.4	-58.6	-45.7	-45.7	-50.0	-51.4	-50.7	-48.6	-37.1	-31.4	-31.4	-5.7
収益状況	-59.4	-65.7	-62.9	-58.6	-68.6	-61.4	-59.4	-58.6	-57.1	-51.4	-54.3	-41.4
業界の景況	-65.2	-65.7	-71.4	-67.1	-70.0	-68.6	-58.0	-58.6	-54.3	-48.6	-47.1	-38.6

8月のDI値をみると、全ての項目で改善が見られた。特に顕著な項目は「売上高」で、25.7ポイントも改善された。昨年10月の50ポイント台から徐々に改善への兆しが伺えたが今回は一挙に改善された。また、「収益の状況」も12.9ポイントとこれも10ポイント以上の改善で、1年を通じても見られない改善である。「業界の景況」は8.5ポイントの改善があり、いずれも最近にない大きな改善である。

業種別に見ると「売上高」で製造業では「食料品」、「木材・木製品」、「印刷」、「窯業・土石製品」、「一般機器」、「電気機器」で改善があり、「繊維・同製品」、「鉄鋼・金属」は悪化した。製造業の業況は全般的に改善した。しかし、非製造業では改善された業種もあるが、悪化した業種として「卸売」、「商店街」、「サービス業」で減少が見られた。総体的には製造業よりも非製造業のほうが景況感が悪い傾向にある。

組合の特記事項からは、製造業では、「木材・木製品」の製材、「鉄鋼・金属」の金属製品や作業工具、「一般機器」が受注面で特に良好な兆しがみられる報告であったが、非製造業では冷夏による影響や「商店街」では夏まつりなどイベントがあり、人は集まり賑わいを見せたが売上に結びつかないなど厳しい状況は変わらないコメントであった。